

国際間のエネルギー環境問題の研究 国際関係・岡本博之教授

環境問題への関心は、開かれる。昨年のドイツ地球規模で高まる一方で、この学会では「環境問題」がある。今年も6月に教授での日本の取り組み」に所属する国際エネルギーについて研究発表をした。

「経済学会がイタリアで 開発途上国の学者から



「環境問題への対応は、国の品格が問われている」と指摘する岡本教授

温暖化をどう防ぐか 国際的な新枠組みが焦点

ポスト京都議定書

「国際的にはポスト京都議定書といわれているように、温暖化をどう防ぐか。アメリカや中国、インドの大量消費国を巻き込んでの国際的な新しい枠組みをつくらう」ということ。もう一つは自動車ももっと頑張れといいたい。

「環境問題では発言権のありか。アメリカや中国、インドの大量消費国を巻き込んでの国際的な新しい枠組みをつくらう」ということ。もう一つは自動車ももっと頑張れといいたい。



これから取り組む研究テーマを語る岡本教授

燃料がどうなるか。ガソリンを使わない新しい燃料電池が30、40年もすれば出てくるのでは、という点になるでしょう。

「国際関係の中で、環境問題はどう扱うか。その品物が問われる。そのスタンスで国レベルが分た」からで、休職して米

「環境問題では発言権のありか。アメリカや中国、インドの大量消費国を巻き込んでの国際的な新しい枠組みをつくらう」ということ。もう一つは自動車ももっと頑張れといいたい。

セラミックス加工の技術開発 工・橋本純教授

硬くて耐熱性にも優れたセラミックス材の切断や穴あけを、刃物でなく、破壊の時に発生する亀裂を利用して行うという、全く新しい発想による技術を開発している。切断は一瞬のうちに



「ビンの輪切りも簡単、きれいにできる」と語る橋本教授

壁の耐熱タイルやエンジン部品、さらに半導体、人工骨、刃物などに幅広く利用されている。このセラミックスを切断する

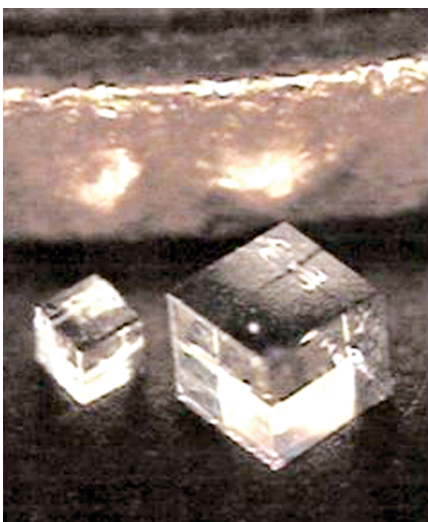
「環境にも影響を与えない画期的な技術として注目されている。」

環境対応型の新技術

亀裂利用しセラミックス材切断 切りくず出さず一瞬に

「切れる」と考え、豚の骨で実験。すでに切断装置も開発した。「医師が手術で大腿骨の骨頭を切る場合も、刃物ではないので、他の部分に傷をつけない心配がない」と安全面のメリットを話す。

「環境にも影響を与えない画期的な技術として注目されている。」



薄板ガラスを切断して作った0.5ミリ(左)と1ミリの立方体。上部にあるのは10円硬貨

「加工に多くの時間とエネルギーが必要で、薄板ガラスの切断は、0.5ミリの立方体まで作ることに成功した。グラニュー糖1粒ほどの大きさという驚異的な技術だ。」

「環境にも影響を与えない画期的な技術として注目されている。」

「切れる」と考え、豚の骨で実験。すでに切断装置も開発した。「医師が手術で大腿骨の骨頭を切る場合も、刃物ではないので、他の部分に傷をつけない心配がない」と安全面のメリットを話す。

岡本 博之(おかもと ひろゆき) 昭和40年千葉大学文学部経営教育学会所属。コロンビア大学国際関係学専攻。学日本経済学会、組織学会、日本経営教育学会所属。コロンビア大学国際関係学専攻。学日本経済学会、組織学会、日本経営教育学会所属。コロンビア大学国際関係学専攻。学日本経済学会、組織学会、日本経営教育学会所属。

プロフィール

橋本 純(はしもと じゆん) 昭和54年、平成11年から1年間、米田テキサス大学前期課程修了後、工学部副手。59年博士後期課程単位修得退学。同日本セラミックス協会、年工学部助手。専任講師。精密工学会などに所属。助教授を経て、平属。岩手県出身。53歳。